

森や木とふれあい、木と暮らし、ともに生きる

「もくいく」木育から学び、伝えていくこと

豊かな緑に恵まれた、岐阜県。

この地で今、「木育」が注目を集めています。

日本有数の森林県に住む私たちが、

次代のためにできること。

それは「木とともに暮らす」ということ。

まずは、知ることから始めてみましょう。

まず、知ることから始めてみましょう。



1月29日に開催された木育ひろばにて。木に触れながら、楽しそうに遊んでいます

日本有数の森林県・岐阜 今を生きる私たちにできること

世界ベスト3の森林率を誇る日本は、国土の70%を森林が占めている「森林大国」。さらに岐阜県は、森林率82%を占める、日本有数の「森林県」です。森の中に住んでいるといっても過言ではないほど、豊かな緑に恵まれています。私たちはこれまで、計り知れないほどの恩恵を森から受けてきました。昔も今も、森林が、木が、豊かな暮らしを支え続けてく

子どもたちが教えてくれた 木の大切さと、日本の豊かさ

森と人のかかわりについて学ぶ「岐阜県立森林文化アカデミー」があり、豊かな自然に囲まれている美濃市では、「木育」のモデル地区として近年さまざまな活動が行われています。市内の保育園で行われた国の補助事業「木育カリキュラム開発」では、3〜5歳の園児ら

が、木材を使ってマイ箸やスプーン、椅子などを作り、暮らしの中で使っています。もちろん、ノコギリ、釘、金槌も自分で使います。当初は「危ない」「園児にはハードルが高い」という声もありましたが、その不安を吹き飛ばしたのは、他でもなく園児たち本人でした。

協力する喜びや、相手を気遣うことを自然と知っていくのです。木工教室との大きな違いは、ここにあります。「ものを完成させる」ことが一番の目標ではなく、「木と樹との関わり合い」に重点を置いているからこそ、子どもたちに学びが生まれるのです。さらに、大人たちが想定していた以上の効果も。木のマイ箸を作り、実際に使っている年中の園児らの、行動が変わったといえます。「箸を噛まなくなったし、落とさなくなったん

です。箸使いも、お片づけも、とても丁寧。誰も何もいっていないのに、なんだか食べる時間をとても大切に過ごしているように感じました」と保育士。木が持つパワーや、子どもたちの中に刻まれた大切なことを、感じた瞬間でした。

「ふれあい、学び、共に生きる」 美濃市ならではの木育のかたち

3〜5歳の幼児に対して「木を楽しむ」活動を推進していくと同時に、0〜2歳児に向けては「木に触れる」機会を作る取り組みが行われています。そのひとつが「ウッドスタート事業」。美濃市内に誕生したすべての赤ちゃんに木製のおもちゃをプレゼントするものです。「うだつのあがる町並み」からヒントを得た「うだつみき」は、地域のヒノキを使い、うだつを思

わせる形に、瓦と漆喰の色を施しています。さらに、お片づけシートは本物の美濃和紙。この積み木が、昨年度市内に誕生した赤ちゃんに贈られました。「ここで生まれたことを誇りに思っている。美濃の子どもたちのためなら、職人たちが気持ちをひとつにして、心を込めて作ってくれたんです」と話すのは、森林文化アカデミーの教授、松井勲尚さん。美濃で生まれた赤ちゃんは、生まれてすぐに木を使ったおもちゃに触れ、その香りや触り心地を感覚的に知って、すくすくと育っていくのです。

さらに昨年12月には、0歳〜2歳の子どもを対象にした「みの赤ちゃん木育ひろば」がオープン。子育て支援「もみじっこ」のボランティアスタッフが、子どもたちの遊びをサポートしています。こ

こにあるのは全部、岐阜の木からできた、木のおもちゃや遊具。時には森林文化アカデミーの学生らもボランティアスタッフとして参加し、子どもたちと一緒に遊んだり、子どもや保護者に木の話をしたりと活躍しています。

「自然素材は、つながりが見えやすい。子どもたちには、木が生きているところも、切り倒されてしまふところも、しっかりと見せて、その上でものづくりを体験します。命をいただいていること、それに感謝する気持ちを育みながら、木が生活を支えてくれていることを身をもって体験していくんです」と松井さん。そうした大切な経験から、多くを語らなくても、子どもたちは自然と学びを深めていくといえます。

私たちの宝物である森。緑に囲

みの赤ちゃん木育ひろば
対象 0〜2歳くらいまでの子どもとその親
場所 道の駅にわか茶屋西棟
料金 無料
開催日 月〜金曜の10:00〜15:00
※時間外でも道の駅の営業時間内であればいつでも遊ぶことが可能(スタッフはいません)
問い合わせ 美濃市役所健康福祉課
婚活・子育て支援係
TEL 0575-33-1122(内線142)

利用親子の見守りや木のおもちゃの遊び方指導、おもちゃの管理などを行うボランティアスタッフを募集中

道の駅にわか茶屋にある「みの赤ちゃん木育ひろば」。木の香りとぬくもりが感じられ、心が和む



①遊具も、子どもたちの肌にふれるものだから、温かみのある木材を
②森林文化アカデミーの学生らも、木育ひろばで子どもたちとの交流を楽しんでいます ③おもちゃだけでなく、本棚や備品など、できる限り木を使った空間を作っています ④マイ箸を作った、美濃保育園の園児たち。自分たちで作った木の箸を使って、今日も元気に「いただきます!」 ⑤木育ひろばでは、使わなくなった子育てグッズや子ども服などを物々交換する「リサイクルひろば」を定期的に開催



木の種類の焼印が押された「まあるいつみき」は、大きさや色、形、重さもバラバラ。スキ、ヒノキ、ナラなどを使っています

まあるいつみき

岐阜県立森林文化アカデミー教授で、木育推進委員会の委員としても活動する。松井勲尚(ときなり)さん